

交通手段のない高齢者への生活支援

こんな取り組みしています！
神田地区まちづくり協議会

協議会データ

平成20年発足。構成自治会数8 世帯数444
 人口1219 高齢化率33%（平成29年1月現在）
 平成23年から神田まちづくりセンターを管理・運営



高齢者の買い物へのつきそい

交通手段がない高齢者と一緒に、スーパーやドラッグストアへお買い物。移動は、毎回社会福祉協議会のマイクロバスを借用。買い物後は、自宅までの荷物の運搬も手伝う。月2回のサービスで、利用者は1回につき200円を払う。



課題解決の模索

協議会としてさらに細やかな生活支援をめざし、住民団体「かんだサポート会」による買い物つきそい支援をスタート。

地域の課題

・高齢化に伴う独居世帯の増加で、見守りやフォローが必要。
 ・地区内に小売り店等がないうえ、路線バスの停留所も近隣になく、日常の買い物が困難な人がいる。

●かんだサポート会

まちづくりセンターの美化、庭木の手入れ、家事援助など地域や住民の日常生活支援を行う。人材登録制で、40～80代の約30人が登録。依頼に応じて登録者が出動する。（原則有料）



メンバー最高齢・82歳の
 筑摩克己さん

主に葉刈りの支援をしています。せっかくの庭がきれいだといいやろうなあとの思いから。地域の人々の喜びが自分の喜びになっていますね。

関わる人たち



買い物支援利用者（80代）

怪我や事故が心配で、もう車や自転車は使えないので、このサービスは本当に助かっています。月に2回のペースもちょうどいいですね。



協議会事務局長・まちづくりセンター所長
 伊藤義弘さん

細やかな支援を続け、地域を見守ることにつながっていきたいですね。今後まちづくりセンターがつながりの拠点となることをめざし、サロンを継続して開こうと計画しています。



かんだサポート会代表
 畑澤誠一郎さん

買い物移動時の車内は、住民同士の楽しい交流サロンのようになっています。今後もサポート会メンバーとともに地域の課題解決に向けて取り組んでいきます。

地協のイメージ



地域支援職員
 地域活力プランナー
 市民活動センター

自治会や連合自治会との違い

自治会は、みんなで決めたルールにのっとってお互いに助け合い支え合う、地域を基盤とした住民組織の一つです。また自治会同士の連携機関が連合自治会です。

地協は、①多様な団体から構成されていることから、地域の魅力づくりに向けて専門的な知識や技術で取り組むことができる、②役員や構成員が一定期間変わらないことで活動の持続性がある、③自治体の枠を超えて取り組みを広げることができます。

市民活動センター等の
 支援については5ページ

地協ってなに

- ・地域の特性や課題を住民が共有できるようにします。
- ・魅力ある地域づくりに取り組みます。
- ・住民の暮らしを支える新たな公共サービスの担い手をつくります。
- ・住民の社会貢献活動や生きがいをつくります。
- ・地域住民の交流（コミュニティ）の場を提供します。

地協が必要な理由

地域ごとの課題（集落の人口減少・高齢化、核家族化、コミュニティの希薄化、地縁団体の機能低下など）を解決し、魅力あるまちづくりを進めるには、地域のあらゆる人や団体が一体となった活動や取り組みが必要です。その核となる組織が地協です。

特集・地域づくり協議会
 私たちのまちは、
 私たちでつくる

市内に地域づくり協議会（以下「地協」）が設立され10年。それぞれ地域の課題解決に向けて取り組んでいます。
 この特集では、地協の役割や具体的な取り組み事例とともに、地協の取り組みを深化させるため設置した「ながはま市民活動センター」の支援制度について紹介します。